

# がん検診を受ける方へ

## ～がん検診を受ける前にお読みください～

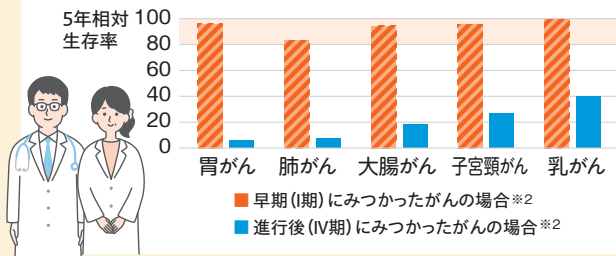
- がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療を行うことにより、がんによる死亡を減少させることです。単にがんを見つけることが、がん検診の目的ではありません。
- **がん検診は、早期発見・早期治療のために症状のない方を対象にしています。自覚症状や気になることがある方は、がん検診ではなく、早めに医療機関を受診してください。**
- 治療中または経過観察中の方は、保険診療で受診してください。
- がん検診や精密検査が体の負担となる方は、検診を受ける前に主治医とよく相談しましょう。

## がん検診の効果（メリット）

- 適切な間隔で定期的ながん検診を受け続けることで、がんの可能性を早期に発見し、命を守ることができます。
- 早期発見できれば、負担の少ない治療で完治する可能性が高くなります。
- 「異常なし」と判定された場合は、安心感を得られます。

### 早期発見により、多くのがんが治ります。\*1

胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がんは **90%以上**  
肺がんは **80%以上** が治ります。\*1



- ※1 ここていう「治る」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を取り除いた数値です。
- ※2 病期分類のひとつである「TNM分類」では、がんがどのくらいの大きさになっているか、周辺のリンパ節に転移しているか、別の臓器への転移はあるかの3つの要素によって、病期を大きく0～IV期の5つに分類します。0期に近いほどがんが小さくとどまっている状態、IV期に近いほどがんが広がっている状態（進行がん）です。

出典：全がん協加盟施設における5年相対生存率（2011-2013年診断症例）  
国立がん研究センターがん情報サービス  
「がんの病期のことを知る」  
([https://ganjoho.jp/public/dia\\_tre/dia\\_tre\\_diagnosis/stage.html#anchor4](https://ganjoho.jp/public/dia_tre/dia_tre_diagnosis/stage.html#anchor4))



## がん検診の不利益（デメリット）

- がんが100%見つかるわけではありません。見つけにくいがんもあります。
- がんではないのに「がん疑い」と判断され、精密検査により身体的・精神的に負担がかかる場合があります。
- 検診や精密検査を受けることで健康を害する場合があります。（例：バリウムの誤嚥、放射性被曝や内視鏡による出血など）
- 胃バリウム検査と胃内視鏡検査を毎年交互に受診することは不利益が大きくなるため推奨されていません。

**それでも、がんから命を守るためには、がん検診を受けることがとても重要です。**

## Q がん検診の「適切な受け方」ってありますか？

はい、あります。まず、科学的根拠が確立したがん検診を受診しましょう。がんて亡くなることを防ぐためには、**がん死亡を減らす効果が確実で、かつ、利益が不利益を上回る検診を受ける**ことが大切です。現在、国はこれらの要件を満たすことが科学的に認められた検診（18ページ）の受診を推奨しています。



国立がん研究センター  
がん情報サービス  
[ganjoho.jp](http://ganjoho.jp)

「がん検診」などのがんの情報についてもっと詳しく知りたい方は、国立がん研究センターのがん情報サービスから、わかりやすく確かな情報をご覧ください。